

## 会議録

会議の名称	第6回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会
開催日時	令和8年2月5日（木曜日）午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所	田無庁舎5階502会議室
出席者	委員：小野部会長、小林委員、島崎委員、辻委員、中西委員、林委員  事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、宮田子ども若者応援課子ども若者計画係長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係主任、須藤子ども若者応援課子ども若者計画係主任、高橋子ども若者応援課子ども若者計画係主事
議題	1 議題 (1) 令和8年度ワイワイトークについて (2) 意見表明アンケートについて (3) 日常保育での活動について (4) 若者会議について (5) 意見表明アンケートについて (6) 「子ども・若者の権利の観点」からの評価で使用する評価シートについて 2 報告 子ども・若者ワイワイプランの「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証方法についての中間報告書 3 その他 令和8年度専門部会のスケジュールについて
会議資料の名称	資料1 令和8年度 ワイワイトーク募集について 資料2 子どもアンケートの実施について（案） 資料3 日常保育での活動の取組状況確認について（案） 資料4 （仮称）若者会議募集チラシ 資料5 （仮称）西東京市若者会議募集要領 資料6 専門部会の評価シート（事業実績の自己評価資料含む）案 資料7 子ども・若者の権利の観点からの評価・検証方法についての中間報告書 資料8 令和8年度専門部会スケジュール（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<b>1 議題</b> ○小野部会長： 来年度の「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証テーマ、子ども・若者の声を聞く方法について第5回子ども・若者審議会に報告した。 テーマ、方法に反対の意見はなかったが、アンケートの実施方法について子どもの権利擁護委員（CPT）が行っている小学校の子ども条例出張授業の後に、評価・検証の	

アンケートを組み込むのが効果的ではないか、子どもの権利擁護委員の活動との連携を取れると良いのではないかと、との意見があった。

そのため、子どもの権利擁護委員の活動状況や出張授業の実施時期等も確認した上で、議論したいと思う。

詳細は事務局より説明願う。

○事務局：

子どもの権利擁護委員による出張授業は、全ての市立小学校の6年生を対象に実施しており、市立中学校にも可能な限り実施している。

住吉会館にほっとルームがあるが、遠くて利用できないなどの声があり、小学校や児童館に向いて相談事業も行っている。今までの電話やメールでの相談に加えて、切手を貼らずに投函できる「ほっとルームレター」を今年度から本格実施し、50件以上の手紙が届いている。

ほっとルーム通信子ども条例特集号では、編集作業を大学生に協力いただいている。

また、市立中学校1年生を対象に、西東京市子ども条例及び西東京市子ども相談室ほっとルームの認知度等を把握するためのアンケートを実施している。

子ども条例副読本の授業への活用状況を把握するため、市立小学校の6年生の学級担任等を対象にアンケートを実施している。

○小野部会長：

出張授業の実施時期について伺いたい。

○事務局：

出張授業は年間を通して実施しており、各学校の年間スケジュールに応じて申込みを受けている。

○小野部会長：

出張ほっとルームも通年で実施しているのか。

○事務局：

出張ほっとルームは、出張授業を実施した学校で昼休みや放課後に実施している。

○中西委員：

ほっとルームレターについて、昨年度は1件しか届いていないのに対して、今年度は50件以上届いている理由はあるのか。

○事務局：

昨年度は試行実施として市内の学校3校を対象に実施した結果、1件であった。今年度は市内全ての小中学校を対象に本格実施するため、子どもから使いやすさやデザインについて意見を聞き、改良した結果、50件以上届いている。

○小野部会長：

普段から子どもの意見を聞く機会を設けている取組として、とてもよいと思う。

○中西委員：

ほっとルーム通信の子ども条例特集号について、大学生の都合により遅れてしまうことがあったが、もう少し早い時期に取り組んだ方がよいか。

○事務局：

大学生の予定が忙しいことは理解したうえで、ご協力いただきたいと考えているため、スケジュールを調整していきたい。

○中西委員：

大学生はやりがいを感じていたのも、そのように言っていただけて有り難い。  
出張ほっとルームでも大学生が協力しており、大学生がいた方が子どもは話しやすいように感じた。

○小野部会長：

大学生はどのくらい参加協力しているのか。

○中西委員：

2、3人ほどである。ワイワイトークにも協力している大学生に声をかけ、希望者を募っている。

○小野部会長：

出張ほっとルームは、市内全ての児童館・児童センターで実施しているのか。

○事務局：

令和7年度は、1月までに4か所で実施している。

○小野部会長：

子ども条例、子ども相談室ほっとルームのアンケートは、出張授業や出張ほっとルームと組み合わせられたらよいと思うが、毎年度実施しているのか。

○事務局：

毎年度1月に実施している。

○小野部会長：

令和8年度の春に計画している子どもの意見表明のアンケートとは一緒に実施できないのか。

○事務局：

実施時期については調整したい。

○小野部会長：

市からのアンケートは学校の授業中に実施しているのか。

- 辻委員：  
授業時間ではなく、ホームルームの時間に実施している。
- 小野部会長：  
学校の時間に実施していることを考慮すると、回答が少ないように感じる。
- 辻委員：  
市内全ての市立中学校にアンケートを依頼しても、必ずしも全ての生徒が回答しているとは限らないと思う。また、学校によっても実施方法は異なると思う。
- 小野部会長：  
子どもの意見表明のアンケートを実施した時も、同様の回答率になるのか。
- 辻委員：  
全ての学校のデータが必要なのか。
- 小野部会長：  
回答自体は任意でよいが、機会の平等の観点から全校で実施するのが望ましいと思う。
- 辻委員：  
アンケート対象者全体を見ると、回答者数は少なくないと思う。  
秋から冬にかけて市の様々な課からアンケートの依頼があるが、アンケートごとに対象の学校を絞って依頼いただいたら協力しやすいと思う。
- 林委員：  
アンケートは、子ども条例や子どもの権利を知ってもらう啓発の側面から、全校で実施できるとよいと思う。学校の負担も考え、実施時期を調整いただきたいと思う。
- 小野部会長：  
子ども条例、子ども相談室ほっとルームのアンケートは、1月に実施する必要はないと思う。実施時期については、検討いただきたいと思う。
- 島崎委員：  
ほっとルームレターの入手方法について伺いたい。
- 事務局：  
今年度の始めに学校に一斉配布した後に、各学校や児童館・児童センターに設置している。また、手紙の返事に新しいほっとルームレターを同封して送付している。
- 小野部会長：  
どこに一斉配布したのか伺いたい。

○事務局：

市内の小・中学校、市外の小・中学校へ通う児童、生徒へ配布した。

### **(1) 令和8年度ワイワイトークについて**

事務局から資料1に沿って説明

○小野部会長：

募集チラシが完成後、部会員に連絡いただきたい。  
意見等はあるか。

○林委員：

市内に私立中学校はあるのか。

○小野部会長：

武蔵野大学付属中学校があるので追記いただきたい。

ワイワイトーク参加者への図書カードを、いこいなを用いたデザインにするのはどうか。

○事務局：

図書カードをオリジナルデザインにすることが難しかったため、いこいなイラストを入れた文房具を用意したいと考えている。

○小野部会長：

昨年度も、いこいな文房具をプレゼントしたと思う。昨年度の募集チラシにはその旨を記載していたか。

○事務局：

昨年度は記載していない。今年度のチラシには、その旨を記載したいと思う。

○小野部会長：

専門部会員がチラシの最終版を確認できるのはいつ頃か。

○事務局：

3月中旬を予定している。

### **(2) 意見表明アンケートについて**

事務局から資料2に沿って説明

○小野部会長：

チラシにもアンケートの二次元コードを掲載するのか。  
また、何回でも回答できてしまうのか伺いたい。

- 事務局：  
掲載する予定である。  
システムの複数回答をブロックすることが難しい。
- 島崎委員：  
アンケートの質問案②は、自分の意見や思いを伝えられる「人」を聞いているが、その後の質問案③では「場所」について聞いているため、小学校低学年の子どもは戸惑うのではないかと思う。
- 小林委員：  
小学1年生なら理解できると思う。
- 林委員：  
質問案③の選択肢は場所ではなく、家族や学校の先生など人物を選択肢にしないのか。
- 辻委員：  
小学校の子どもは、スクールカウンセラーにもよく話すと思う。
- 林委員：  
「学校」という選択肢では、子どもは答えにくいかもしれない。「学校の先生、スクールカウンセラー、保健室の先生」など、人物に焦点を当てて細分化した方がよいと思う。
- 小野部会長：  
細分化しすぎると集計が大変になるため、場所の方がよいと思う。
- 小林委員：  
選択肢ではなく、自由記述にするのはどうか。
- 小野部会長：  
集計面を考えると、選択肢の方が望ましいと思う。選択肢に「その他」を追加して、自由記述欄を設けるのはよいと思う。
- 小林委員：  
小学校低学年は選択肢にないことは答えにくいので、選択肢に「なし」を追加するとよいと思う。
- 島崎委員：  
場所に焦点を当てた選択肢になっているが、場所に連想される人物も例示したらどうか。放課後子供教室で自分の意見や想いを地域の大人に伝えていても、「学校」という選択肢に様々な人物が包含されていると思わず、「学校」を選択しないのではないかと思う。

○辻委員：

小学校低学年は学校の先生が説明したうえで一緒に回答しないと、選択肢の意味が分からないのではないか。

○小野部会長：

例として人物を挙げすぎると、スクールカウンセラーには話せるが、担任の先生には話せないなど、回答が難しくなってしまうかもしれない。

○林委員：

子どもの意見表明のアンケートであるならば、「ほっとルーム」や「市役所」など行政の選択肢も追加した方がよいと思う。

○島崎委員：

ほっとルームがある住吉会館は、多くの子どもが集まって遊んだり、勉強している。

○小野部会長：

市としては、場所を聞いた方が改善に向けて取り組みやすいと思う。

住吉会館やコミュニティセンターなど、選択肢を増やすことも検討した方がよいかもしれない。

場所として他に考えられるものはあるか。

○小林委員：

子ども食堂はどうか。

○小野部会長：

よいと思う。

子ども食堂の団体はネットワークを構築しており、行政とも関わりがあると思う。

○林委員：

習い事や塾なども挙げられると思う。

行政に関わることに限定するのか、民間企業も含めて市全体を対象とするのか、アンケートの趣旨を考慮する必要があると思う。

○小野部会長：

習い事まで選択肢を増やす必要はないのではないか。「その他」に書いてくれると思う。

○林委員：

習い事が意見を伝えやすい場所だと強く感じているのであれば別だが、選択肢にないと子どもは意識しないのではないか。

○小野部会長：

習い事と塾を選択肢に入れた方がよいか。同様のアンケートを実施している他自治体

では、どのようにしているか。

○林委員：

川崎市では習い事も選択肢に入れていたと思う。

○林委員：

ほっとルーム以外に教育委員会には相談できる場所はないのか。

○辻委員：

スキップ教室などたくさんあると思う。

○小野部会長：

選択肢に市の機関を追加して具体的な施設名を例示するのはどうか。

○辻委員：

選択肢に「その他」を設けて書いてもらえばよいと思う。

○小野部会長：

選択肢の「公民館」を「公民館など」に変更して、住吉会館やコミュニティセンターも含めるようなニュアンスに変更いただきたい。「ほっとルーム」は認知度向上のために入れた方がよいと思う。また、「子ども食堂」は入れた方がよいと思う。

場所の選択肢を事務局に再度検討いただき、次回の専門部会で引き続き議論したい。

○林委員：

アンケートは匿名なのか。匿名であるならば、その旨も明示した方がよいと思う。

○事務局：

匿名を予定している。

○小野部会長：

市が回答者情報を収集していないことも明示していただきたい。

実際に子どもが見る状態のものを次回の専門部会でお示しいただきたい。次回は動画の案も示していただけるのか。

○事務局：

その予定である。

○小林委員：

アンケートの自由記述欄は、たくさん書けるように大きくしていただきたい。

○小野部会長：

各質問に複数回答が可能なことも記載いただきたい。

### (3) 日常保育での活動について

事務局から資料3に沿って説明

○小野部会長：

市内の保育園は子どもの意見表明に取り組んでいるようなので、私立保育園も対象にしてよいと思うが、今回は初めての取組であるため市立保育園にて実施するという事である。

保育園の受け入れが可能な範囲で部会員も見学を一緒にしていただけたらと思う。

### (4) 若者会議について

事務局から資料4、資料5に沿って説明

○林委員：

5月15日に申込結果が届いて、5月21日に初回の会議は期間が短いと思う。

○小野部会長：

選考は行わず、応募した全員が参加できる予定である。選考なしの旨も記載した方がよいか。

○林委員：

「15人程度募集中」という記載が誤解される可能性があると思う。

○小林委員：

申込みフォームに記載したらどうか。

○小野部会長：

よいと思う。申込みフォームに記載いただきたい。

○中西委員：

申し込む際の必要事項を伺いたい。

○事務局：

市内在住・在学・在勤の確認、名前、住所、連絡先を予定している。また、初回会議の参加が必須であることを確認いただきたいと考えている。

○小野部会長：

質問や問合せがある場合はどうしたらよいか。

○事務局：

ポスターやチラシに記載している問合せ先に連絡いただければと思う。

○小野部会長：

フィードバックの振り返りは自由参加とあるが、発表する若者もいるのではないか。

- 事務局：  
その予定である。
- 小野部会長：  
発表する人には謝礼があった方がよいと思う。
- 事務局：  
予算も踏まえて調整したい。
- 林委員：  
「フィードバックの振り返り」は、応募者は分からないと思う。若者が発表したことを子ども・若者審議会で審議して、若者にフィードバックすることが分かる書き方がよいと思う。
- 小野部会長：  
募集要項に追記いただきたい。  
「フィードバックの振り返り」ではなく、「意見交換」に修正いただきたい。
- 小野部会長：  
第3回の若者会議は、全員が同じ日に集まる必要はないと思うので、その旨も記載した方がよいのではないか。2週間毎に会議があるのは負担に感じないか。
- 小林委員：  
メンバーの都合を聞いたうえで日程調整すれば問題ないと思う。意欲があって参加していると思うので、2週間毎は大きな負担にはならないと思う。
- 小野部会長：  
年間スケジュールの「研修」は、「ガイダンス」の方がよいと思う。
- 小林委員：  
ガイダンスは学生にも聞き馴染みがあると思う。
- 林委員：  
「学習会」もよいと思う。ガイダンスは、説明を聞くだけというイメージがあり、学ぶイメージとは異なると思う。
- 辻委員：  
「〇〇について」でもよいと思う。
- 小野部会長：  
事務局で検討いただきたい。

○林委員：

子ども・若者審議会委員は若者会議の応募資格がないようだが、市の他の審議会の若者委員は応募できないのか。

○事務局：

子ども・若者審議会は、若者会議の意見を踏まえて市の取組を評価・検証する立場であるため資料5に明記している。

○林委員：

他審議会の若者委員が応募できるのかについても、明記した方がよいと思う。  
また、市職員や市内の教職員が応募した際の取扱いも想定していただきたい。

○小野部会長：

教職員については、応募可能の方向でよいと思う。

○小林委員：

若者会議に同じ学校の生徒と教職員がいた場合、生徒は意見を言いにくいと思う。

○小野部会長：

被ってしまった場合は、教職員側に連絡するなどして臨機応変に対応いただきたい。

○小野部会長：

募集要項最終版をワイワイトークのチラシと一緒に送付いただきたいと思う。

#### (5) 「子ども・若者の権利の観点」からの評価で使用する評価シートについて 事務局から資料6に沿って説明

○林委員：

事業ごとに対象世代が分かるような評価シートになるとよいと思う。

○小野部会長：

高校生の評価は、子どもと若者の両方の性質を持つため、その旨も記載いただきたい。様々な課に記載いただくが、同じ方向性になるように研修などは行うのか。

○事務局：

子どもの権利について全職員対象の庁内研修を行っている。

また、事業の自己評価の記載が同じ方向性になるよう準備を進めている。記載方法について説明を添えたうえで各課に依頼し、その後は必要に応じてヒアリングしたいと考えている。

## 2 報告

子ども・若者ワイワイプランの「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証方法についての中間報告書

事務局から資料 7 に沿って説明

### 3 その他

令和 8 年度専門部会のスケジュールについて

事務局から資料 8 に沿って説明

○小野部会長：

令和 7 年度第 6 回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会を閉会する。

以上